

## 活動報告2

# 「夢見の森」に目覚める 森林再生プロジェクト／洞爺湖町



報告者 高橋真由美さん

平成 26 年 7 月から交付金をいただき、3 年間にわたって活動してきました。

洞爺湖町月浦のこの地域には「自然と共生する暮らしをしたい」と移住してきた方が多くおられます。隣接の豊浦町にはシュタイナー学校があり、小さいお子さんがそこに通っている家族など、約 40 人が私たちの団体の会員です。団体のロゴマーク（右上）は、そのシュタイナー学校の美術の先生が、この森に住むエゾフクロウをモチーフにデザインしてくれました。

### 私たちのフィールド

私たちが活動している「夢見の森」は、面積 7 ヘクタールほどの森ですが、もう何十年も放置されて荒廃していました。平成 24 年にこの山林を取得したものの、どう手入れしていくかアイディアがなかったなかで、木育マイスターであり樹木医でもある鈴木隆副代表と一緒に、「まず森を手入れするための道を通そう」と決め、作業道建設を最初の目標にしました。

### 活動のようすと成果

平成 26 年夏には全体の半分にあたる 250 メートルが開通し、お化けが出てきそうな、うっそうとしていた森が、お客さまを呼べる森に変わりました。同年 9 月にバイオリニスト杉田知子さんをゲストに迎えて「森開きコンサート」を開きました。

路盤材としてホタテの貝殻（地元の産業廃棄物）を再利用したところ、エコロジカルだと話題を呼び、『北海道

新聞』に記事が出たことをきっかけに、同新聞社の広告写真に採用されました。

2 年目にはこの道をさらに 250 メートル延ばし、3 年目にはこれまでササが密生して立ち入ることも容易ではなかったトドマツ天然林の斜面に階段式の道を付設しました。こうして、私たちが「てっぺん」と呼んでいる頂上部についに到達しました。そこは眼下に洞爺湖中島を一望できる場所です。昨年 10 月、道路完成のお披露目を兼ねた自然観察会を開きました。

トドマツ林まで通した作業道から、カラマツ林（人工林）内部に向けて支線をクシの歯状に通しましたので、間伐作業が行き渡るようになりました。

「てっぺん」（作業道の終点）から先はまだ行き止



まりなのですが、昨年冬から、北海道自伐型林業推進協議会の「壊れない作業道」講習会会場として私たちの「夢見の森」を使っていただくことになり、（実働研修として）反対側の吉野地区から作業道づくりが始まりました。この研修は平成29年度も継続予定で、私たちの作業道に合流する見込みです。

情報発信のためにドローンを利用した空中撮影も行ないました。「夢見の森 森づくり」で検索いただければ、フェイスブックページでご覧いただけます。

3年前、たった3人で始めましたが、現在は約40人が所属して、わいわい楽しくやっています。グループ内サークルもいろいろできていて、「洞爺湖チェーンソー」は、初年度に伐採研修を受けた人たちが結成しました。子どもたちに林業を体験してもらおうと結成したのが「洞爺湖トビーズ」。「福島キッズキャンプ」などの森林体験会のイベントでは馬を活用し、伐採木をソリに載せて引かせたりすると、その力強さに子どもたちの歓声が上がります。

キャンプでは、アメリカ先住民の移動式住居ティピを用意して、森の中で宿泊しました。天幕を支えるティピポール（支柱）やロープを張るペグは、現場で剪定くずなどを使って手作りしました。



次の年のキャンプでは、アイヌの狩り小屋クチャを作りました。洞爺湖町には「温泉の自販機」があります。そこで汲んだ温泉水でドラム缶風呂を仕立て、洞爺湖を眺めながら浸かりました。クチャは本来は数人用の小さなテントですが、ドラム缶風呂を囲うような大きなクチャをつくりました。

持続可能な暮らしのヒントは森にある、と思います。パーマカルチャーの活動をしている人たちとも連携し、この分野の日本の草分けである臼井健二さんをお招きして「アース・オープン」を造りました。湧き水付近の粘土など、その場所の材料だけで完成させる調理窯です。キッズキャンプなどではこのオープンでピザを焼きます。「一番印象に残ったことは？」と子どもたちに聞くと、「ピザ」という答えが多く返ってきます。

ツリーハウスは、カラマツの立木をそのまま活用し、伐採してきたトドマツを使ってつくりました。丸太の皮を剥ぎ、サンダーをかけ、防腐剤を塗る作業はけっこうたいへんでした。

「森の贈りもの」は、わたしたちの活動の中心ともいえる間伐イベントです。札幌や日高など遠くからの方も含め、去年から始めて延べ60人のボランティア

が来てくださっています。チェーンソーの手ほどきも受けられますし、お手伝いに対して、賃金ではなく、ストーブ用の薪（間伐材）をお一人1立米<sup>リョウベ</sup>ずつ差し上げています。循環経済というんでしょうか。一般的な貨幣経済とは別の経済を実現できていると思います。

### 私たちのこれから

私たちの「夢見の森」は、北海道全域から集まりやすい位置にあり、研修林としても使いやすいと思います。交付期間終了後についてはまだプランがありませんが、北海道自伐型林業推進協議会と連携したり、漠然とですが、会員の中には「林業起業も考えたい」といった声もあります。これからも楽しみながら、みんなとワクワクしながらやっていきたいと思っています。